

大妻女子大学 表千家茶道部 創立 60 周年記念 雪待茶会

茶道部だより

2009. 12. 13

【発行】

大妻女子大学
表千家茶道部

【責任者】

倉島 緑
林 沙也加



大妻庵

軸は小松原様よりお借りした、宗淵先生筆の「花月」

本日は、雪待茶会にお越しただきまして誠にありがとうございました。誠にありがとうございます。

大学の雪待茶会は、大妻女子大学茶道部の創立六十周年を記念いたしまして、大妻中学高等学校茶道部の皆様、更にOGの先輩にご参加いただきまして、

大学茶道部二席と合わせて四席という、盛大なお茶会を催す運びとなりました。このような記念すべき年に巡りあえたことを、部員一同大変光栄に思っております。

また、これからも長年続いてきた茶道部の伝統と守りながら、より一層稽古に励んでまいりたいと思っております。

至らない点もあると思

いますが、皆様に楽しんでいただけたら幸いです。

雪待係 中出 莉恵

雪待茶会

「雪待茶会」とは、年に一度、靖国神社境内のお茶室をお借りして催すお茶会です。「雪はまだかな」と待っているこの季節に合わせ、昭和五十一年に「雪待茶会」と呼び名がつき、今年で三十三年が経ちます。雪待茶会は立派なお茶室で行われ、文化祭などのお茶会とは違った雰囲気があります。

今回のお茶会には、洗心亭にて本学茶道部が広間と立礼を、行雲亭にて大妻中等学校の茶道部が広間

で、本学茶道部のOGが立礼で、それぞれお茶席を設けています。また、今回は点心も付けさせていただきました、行雲亭に休憩所も設けておりますので、ごゆっくりお過ごし下さい。

本年は創立六十周年ということ、部員が少ない中、みんなで協力し合い、ここまでの伝統を大切に、お客様に喜んでいただけるお茶会をと、この日まで頑張ってきました。皆様にお楽しみいただけましたら幸いです。

六十周年記念セレモニー

去る八月三十日、大妻女子大学茶道部創立六十周年を記念して、ホテルグランドパレスに於いて記念セレモニーを挙行いたしました。

六十年の大木を

部長 山口茉莉奈
今年は大妻女子大学茶道部がめでたく六十周年を迎えました。私共大妻女子大学茶道部は昭和二十四年に産声をあげ、以来大妻コタカ先生の「大妻精神」を最も色濃く残す部活として、大妻女子大学と共に歴史を歩んでまいりました。

今回の六十周年記念セレモニーでは、その歴史を築いてきて下さった諸先輩方と改めて振り返り、これからの茶道部をより良いものとしていこうと開催

致しました。

残暑厳しく、なおかつ小雨の降る中、たくさんの方々にご出席を賜り大妻女子大学茶道部記念セレモニーは催行されました。

当日は林原美術館館長でいらつしやり、茶道に關し広く携わっていらつしやる熊倉功夫先生に「茶の湯と日本文化」という演題で講演を賜りました。内容は私達のような学生にもわかりやすく、難しい事も噛み砕いてお話を下さり興味深いものでした。中でも、茶道が日本人の生活習慣や文化に大きく影響を与えたもので、更に茶道は日本人の精神に(利休の茶の湯大成以前に)組み込まれた仏教文化、神道文化に根ざしたものであるというお話は大変印象に残りました。

また、石井とめ子先生、OGの先輩方から賜ったお話は大妻女子大学茶道部としての大切なお話が

多くありました。

石井先生には、茶道部がいかにか大妻精神に根ざしたものであるかお話を頂きました。

初代部長の前田様には、大妻の茶道部が出来るにあたっての出来事を「なかよし三人組」の皆さんとの思い出を交えお話し頂きました。

小松原様には、茶道部創立者の柳沢宗淵先生との思い出をお話し頂きました。さらに宗淵先生の思い出のお道具もお持ち下さり、拝見させて頂きました。

木下様には当日、遠く鹿児島からいらして頂き当時の思い出をお話し頂きました。

川崎様には表千家講習会参加の思い出についてお話を頂き、今年の講習会参加について迷っていた私達の後押しをして下さいました。

そして立礼によるお茶会では不束ながら私が手前を務めさせて頂き、この日のために宝来屋さんには縁起の良い末広がりに金粉をまぶした「寿」

(ことほぎ)というお菓子を作っていただきました。

今回のセレモニーを開催するにあたり、本当にたくさんの方にご協力をいただきました。お忙しい中、連日夜遅くまで私達と打ち合わせを重ねて下さった大森先生、浅賀先生。急な申し出にも関わらず当日の講演を快諾して下さいました熊倉先生、石井先生、

諸先輩方。話し合いを重ね、最後には「お祝い事ですから。特別です。おめでとうございます」と立派なお菓子をご用意して下さいました宝来屋さん。引退なさったにもかかわらずセレモニーの運営を手伝って下さった四年生の先輩方。頼りない私をいつも助けてく

れた副部長、部員の皆。そして当日いらして下さった方々。こんなにもたくさんの方々の力で一つのことを成し得たというのは私事で恐縮ですが、私にとつての生涯の財産です。

高校時代茶室に「関」と書かれた掛け軸が掛かっていました。意味は「人生は辛いこと、苦しいこと、つまり人生の「関所」だからではあるけれど」と協力すれば出来ないことなどはない。そうして乗り越えたことは大きな成長と忘れられない思い出になる」という意味でした。記念セレモニーが終わり達成感の中に私はこの「関」という言葉を思い出し、その意味を理解ができ



セレモニー当日の床と立礼卓
軸には「喫茶去」とあり、お茶を飲もうという意味があります。

ました。
 ただ、心残りであったのは、当日のこの様子を大妻コタカ先生と柳沢宗淵先生、初代部長の前田様と一緒に茶道部を大妻につくろうと発案して下さった「なかよし三人組」の残りのお二方に見ていただくことができなかった事でした。
 私は残念ながら、コタカ先生にも、宗淵先生にもお目にかかったこともお話をしたことも一度もありません。が、今回のセレモニーを迎えるにあたり、石井先生や諸先輩方からお伺いした貴重なお話と、自分たちで調べた茶道部の歴史などからコタカ先生は私達大妻生すべての「お母様」であり、コタカ先生の定められた「恥を知れ」という校訓、その大妻精神を顕著に伝える茶道部のめでたき日を共に迎え、寿ぎたいものであったと心からそう思いました。
 また、宗淵先生は茶道部の創立と発展のため多大なご支援を賜りました。茶道部にあるお道具の数々は宗淵先生の命名された



ものであったり、校章紋のお茶碗のように宗淵先生が発案なさったものであったり、また宗淵先生ご自身によるお手のもので、その宗淵先生がこの様子をご覧になったなら感慨のほどはいかばかりであったかと思えます。
 コタカ先生が茶道部の種をまいて下さいました。宗淵先生がその芽を出して下さいました。諸先輩方が青々と茂る木にして下さいました。私達はその「大妻女子大学茶道部」という六十年の大木を決して枯らすことなく、これからももっと大きく育てていかなくは、そう決意をしたセレモニーでした。



セレモニー

を終えて

〜新入生より〜

三橋 彩加

八月三十日にグラウンドパレスで行われた茶道部創立六十周年記念セレモニーは、私達一年生にとっ

て初めての大きなイベントでした。私は本番の数日前から体調を崩してしまい、準備にはあまり参加できずに結果として当日わからない事が多く他の部員の方々にたくさんの迷惑をかけてしまいました。

私は本番の数日前から体調を崩してしまい、準備にはあまり参加できずに結果として当日わからない事が多く他の部員の方々にたくさんの迷惑をかけてしまいました。
 当日は生憎の雨にも関わらず沢山の方に来ていただき、色々な貴重なお話を聞かせていただきました。
 その中でも私が特に印象に残ったのが前田様・小松原様のお話です。茶道部が出来たばかりでまだ様々な事が手探りだった事など、今とはまた少し違う茶道部の様子を教えてくださいました。他にも私達が今お茶会などで使っている校章紋のお茶碗をデザインしたのが柳沢先生という事をお聞きして驚きと共に自分の勉強不足を感じました。先述の通り、今回は初めての大きなイベントで色々戸惑い、水屋などでもゴタゴタしてしまいましたが良い経験が出来たと思います。
 最後になりますがこの茶道部が八十年、百年と続いてほしいと思います。

大妻祭 添釜茶会(二〇〇九年)

今年の文化祭の添釜茶会は十月二十四日、二十五日に行いました。毎年と同様に広間では下級生がお茶席を、「大妻庵」では上級生がお茶席を持ちました。

今年は大妻の文化祭が例年よりも少し早く、また今年は大妻女子大学茶道部、創立六十周年記念セレモニーも行ったため、セレモニーが終わってからすぐに準備に取りかかりました。

セレモニーから文化祭に掛けてとても忙しく、無事に行うことができるか心配でしたが、文化祭もお茶会も予定通り行うことができました。

この添釜茶会は、下級生は一般の方にお出しする初めての茶会であったため、緊張や不安な気持ちも伝わっていましたが、普段のお稽古を一生懸命していた成果を発揮していました。

上級生は着物を着用してお茶会に望むことが初めてでしたので、普段着ない着物を着用していたためか、気持ちも引き締められたように思います。

今年の部員は人数が少なかつたため、それぞれの役割をこなすのがとても大変でした。特に外受付と中受付の伝達があまりうまく行かず頭を抱えていました。

ですが一日目が終わった後すぐにみんな反省会をし、部員全員の意見や反省点をたくさん出し、改善策を二日目に実践したところ、一日目よりもはるかにコミュニケーションがとれるようになり、部員みんながそれを実感し喜びました。文化祭係だった私は文化祭が終わってからの部員みんなの達成感溢れる顔と声がとても嬉しく感じました。

部員一同、協力し合い、下級生、上級生共に初めて



の経験がたくさんできたように思います。

今年の反省点もまた来年の添釜茶会に生かし、更によりお茶会を行い、お客様に満足して頂けるように日々努力して参ります。

林沙也加

添釜茶会を終えて

〜新入生より〜

中村 真澄

十月二十四日、二十五日に行われた大妻祭の添釜茶会には多くのお客様がお越しくださいり大変嬉しかったです。

私たち一年生は一般の

お客様の前でお点前をした経験がなく、自分たちだけで一つのお茶席を担当したこともありませんでした。そのため、当日の流れや茶会の雰囲気は分からず、初めてのことに對する不安や普段のお稽古とは異なる様子に終始緊張していました。

しかし、人前での点前やお客様との対話などが多く、何を学ぶことができませんでした。慣れないことで不手際も多く、お客様にご迷惑をおかけしてしまつたことが多々ありました。同じ過ちを繰り返さないよう反省し、いつもおもてなしの心を忘れずになりたいと思います。

最後になりましたが、何も分からない私たちがリーダーとしてくださった4年生の先輩方にはとても感謝しています。ありがとうございました。

私たちも楽しく、お客様にも楽しんでいただける茶会ができるよう、今後もお稽古を大切にしていきたいと思ひます。

各係より

【部長】 山口 茉莉奈

今年一年間部長を務めさせていただきました。去年の今頃、いざ部長になったのはよいけれども右も左もわからず、とても頼りない私でしたがいつも助けて下さり、支えて下さった師範の浅賀先生、顧問の大森先生、部員の皆様にもいほどの感謝の気持ちでいっぱいです。この場を借りて御礼申し上げます。いただきます。

また今年は大妻女子大学茶道部創立六十周年という記念すべき年でした。この年を茶道部をあげて寿ぐにあたり、ご協力を頂きました諸先輩方、宝来屋さん、大妻中高茶道部の皆さんにも重ねて御礼申し上げます。

そしてこの六十年も続き、更にこれからも綿々と続いていくであろう茶道部の一員であることはと

ても光榮と存じます。

私の部長としての一年間は本当に至らない点ばかりで恥ずかしい限りです。はじめは皆におんぶに抱っこだった私でも今はつかまり立ち位にはなれたでしょうか。この一年間、皆と過ごせて私はとても楽しく、幸せでした。

一年間、どうもありがとうございました。

【副部長】

倉島 緑

今年も創立六十周年ということもあり、セレモニーや合同の雪待茶会など、大きな行事が多く、しかしながら部員が極めて少ないという厳しい状況で先生方や部長、部員全員で協力し合っていました。

また、今年には部内通信の発行、OG名簿の整理、ホームページの作成など、新しい試みを色々とやってみたりしました。これからのただお茶を点てる・作法を身につけるだけでなく、お茶そのものや道具などの知識を深め、更に内外と緊密なコミュニケーションをとりたいと考えていま

す。

伝統を引き継ぎながら、新しいことへ挑戦し続ける、常に成長する部であるようこれからも色々な試みに挑戦したいと思えますので、これからも御指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

【会計】

倉島 緑

会計は部の活動源といつても過言ではありません。今まで管理したことのないような額を管理することに、就任当時は非常にとまどいました。

特に今年はお金の動きが大きく、悩まされることもありましたが、しっかりと次へ、またその次へ引き継いでいきたいと思います。

【庶務・渉外】 榎谷 雅美

庶務・渉外では、主に各

交流大学の住所管理や葉書を送るのが仕事です。例えば、新年の挨拶と新役員のお知らせとして年賀状、夏の挨拶では暑中見舞い、本大学の文化祭に併せて催される添釜茶会の案内

状及びお礼状、毎年十二月に靖国神社にて催される雪待茶会の案内状及びお礼状の葉書を作成して郵送します。

また、交流大学からの茶会の招待状が送られてきた際に、当日、部員の都合がつかない等の理由により欠席した際のお詫び状を送ることもあります。この他には、送別会を開催することもあります。

近年では、パソコンで作成することが可能になりましたが、どうしても人の手で作業しなくてはならないところもあります。部員の人数が少ない中での作業で大変ですが、とても大切な仕事でもあります。至らない点も多々あると思いますが、これからも頑張っていくので御指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

【文化祭】

林 沙也加

文化祭係の主な仕事内容は、お茶券作りや文化祭に必要な書類など文化祭の準備を主とし、部員の中

心となって準備をします。お客様に満足、また楽しんで頂けるお茶会にしようとして部員全員で協力し合い、練習や準備に励んでいます。

準備の途中ではなかなか思うように進まずに大変な時もありますが、文化祭当日はより多くの方々にお越しいただくよう、一方一方に対してのおもてなしの心を忘れずにお茶会を進め、お客様に喜んでいただけることを、とても嬉しく思います。

おくやみ

本年九月十三日に二十余年に渡って茶道部を指導してくださいました齊藤 宗雅先生がお亡くなりになりました。謹んでご冥福を申し上げます。



来年三月二十七日に「さくら茶フェスティバルニオーin大妻」が大妻女子大学地下アトリウム及び一階で行われます。さくら茶フェスティバルは、千代田区のイベントで主に「茶」を通じて、区民、地域社会、更には国内外へと伝統文化を広める安心安全の街づくりを目的としています。

茶道部も四年前から参加しているイベントで、今回のお茶会はどのようなか未定ですが、とても楽しいイベントになるように工夫をしながら準備して参りますので是非お越し下さい。

お知らせ

校章紋入り 袱紗の販売

本学茶道部の茶会でお馴染みの大妻校章紋入りの袱紗を一枚六千円にて販売致します(送料込み)。購入を希望される方は、下記奥付の住所、またはメールアドレスにお問い合わせください。料金の振込みに関してもその際ご連絡いたします。また、在庫がない場合は発送に時間をいただく場合がございます。ご了承ください。

送料 一枚六千円

宛先 東京都千代田区三番町十二番地

大妻女子大学茶道部 袱紗係

OG会に関するお願い

現役とOGの絆を深めるため、大妻女子大学茶道部OG会を発足しようと考えております。つきましては、OG会を発足するにあたり、名前があった方が親しみやすく、趣があるかと思えます。そこで今回、その会の名前を募集いたします。何か良い案がありましたら、下記奥付の住所、またはメールアドレスにご応募ください。また、アドバイス・ご意見等ありましたら、ご指導よろしくお願いたします。

締切 二〇一〇年一月三十一日(消印有効)

宛先 東京都千代田区三番町十二番地

大妻女子大学茶道部 OG会命名係

編集後記

今年の茶道部だよりを発行するにあたり、創立六十周年記念セレモニー特別号に続き、二回目の発行となりました。茶道部だよりを作るにあたり、部員や先生方のご指導、ご協力のおかげで発行することができました。

今年は六十周年という特別な年となり、伝統あるこの茶道部だよりを今年も発行できることができ、とても嬉しく思います。

最後になりましたが、お忙しい中、ご指導ご協力いただきました先生方及び皆様にお礼申し上げます。

発行日 2009年12月13日(日)
 発行者 大妻女子大学茶道部
 〒102-0075
 東京都千代田区三番町12番地
 責任者 倉島 緑
 林 沙也加
 Mail otsumasadou@yahoo.co.jp
 HP <http://otsumasadou.web.fc2.com/index.html>